欧州景気概況（2021年11月）

2021年11月2日

調査部　副主任研究員　土田陽介

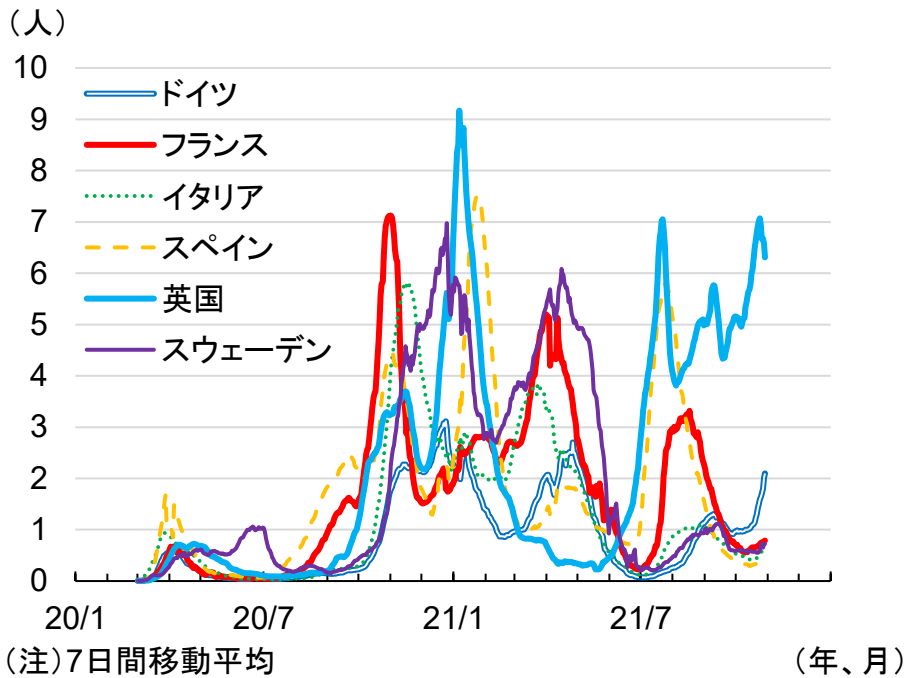
三菱UFJリサーチ&コンサルティング

MUFG

新型コロナウイルスの感染状況

新型コロナウイルスの新規感染者数は、大陸・英国ともに増加基調で推移している。オランダなど一部の国では行動制限の再導入が検討されているが、各国とも基本的には、本格的な冬が訪れる前に三回目のワクチン接種（ブースター接種）を進めることに活路を見出している。

人口一万人当たりの新規感染者数



（注）7日間移動平均

（出所）欧州連合統計局（ユーロスタット）及び英国民保健サービス（NHS）、国際保健機関（WHO）

主要国の行動制限の概要

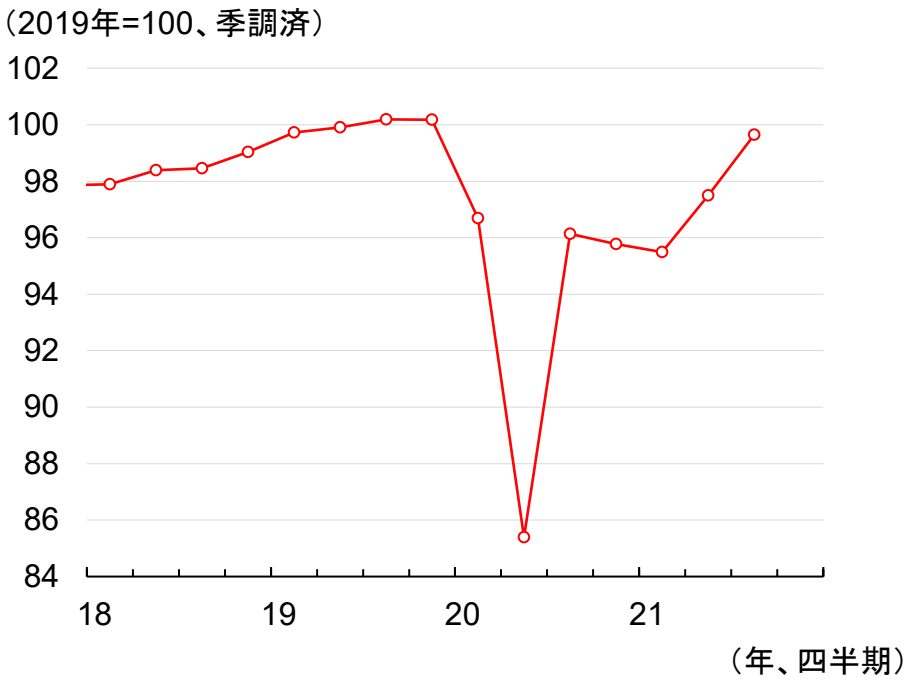
国名	内容
ドイツ	6月30日で「緊急ブレーキ」措置が失効、各州で指標に応じた行動規制緩和を実施。
フランス	6月17日にマスク着用義務撤廃（除くイル・ド・フランス）。6月20日に夜間外出制限を撤廃。一部の国を除き入国が自由（日本人も出入国が自由、ただしワクチン接種証明か陰性証明書などが必要）。
イタリア	夜間外出禁止を撤廃。州を跨ぐ移動の制限も撤廃。各種商店・娯楽施設の再開（ただしダンスホール、ディスコは休止を継続）。
英国	イングランドが7月19日に行動制限の大部分を緩和。8月16日に隔離規制を緩和予定。スコットランドは8月9日に行動制限の全面解除を目指す。

（出所）各種報道

ユーロ圏景気概況①　景気は回復している

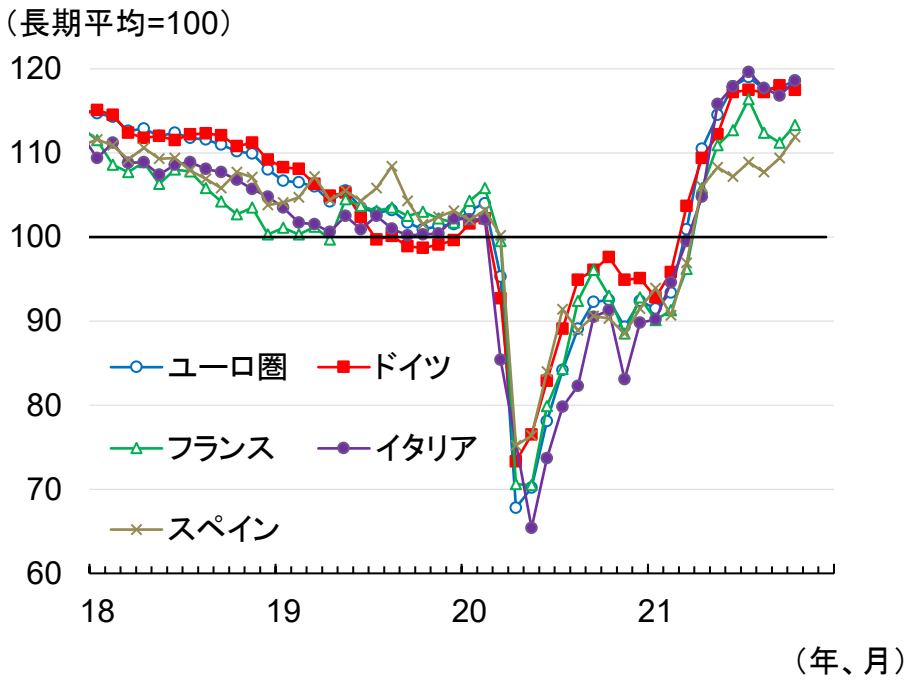
ユーロ圏の2021年7-9月期の実質GDP（速報値）は前期比+2.2%と2四半期連続で増加、景気は回復している。主要国別には、フランス（1.3%→3.0%）やスペイン（1.1%→2.0%）で景気が加速した。一方で、最新10月の景況感指数は118.6と2ヶ月連続で上昇したが、均した動きは高位で横ばいとなっている。

実質GDP



（出所）欧州連合統計局（ユーロスタット）

景況感指数

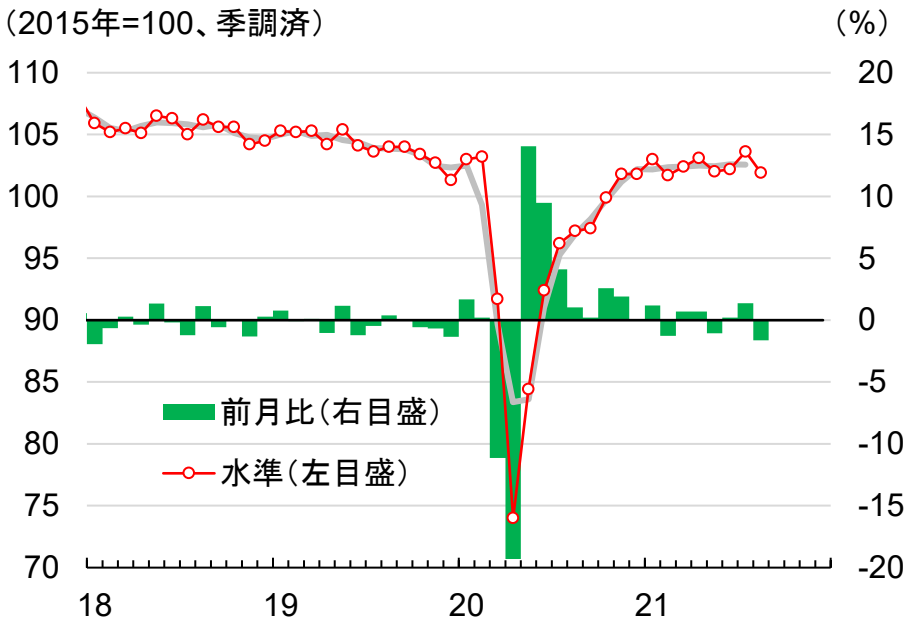


（出所）欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況②　生産は横ばい

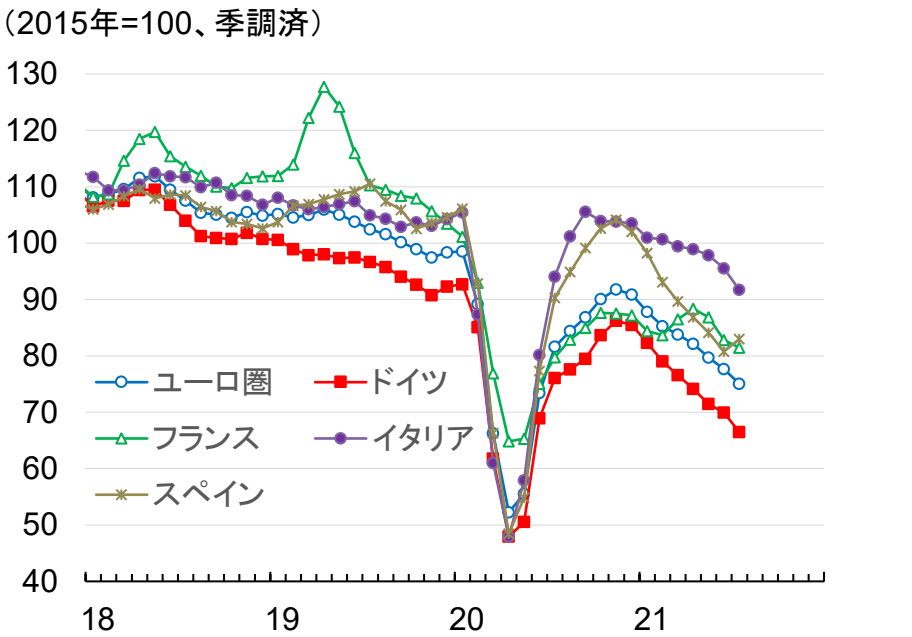
ユーロ圏の8月の鉱工業生産は前月比-1.6%と再び減少、均した動きは横ばいとなっている。鉱工業生産ベースで見た自動車生産台数が下振れしており、世界的な半導体不足の影響を受けた自動車の不調が生産全体の重荷となっていることが分かる。

鉱工業生産



（注）灰色線は3ヶ月移動平均
（出所）ユーロスタット

自動車生産台数（鉱工業生産ベース）

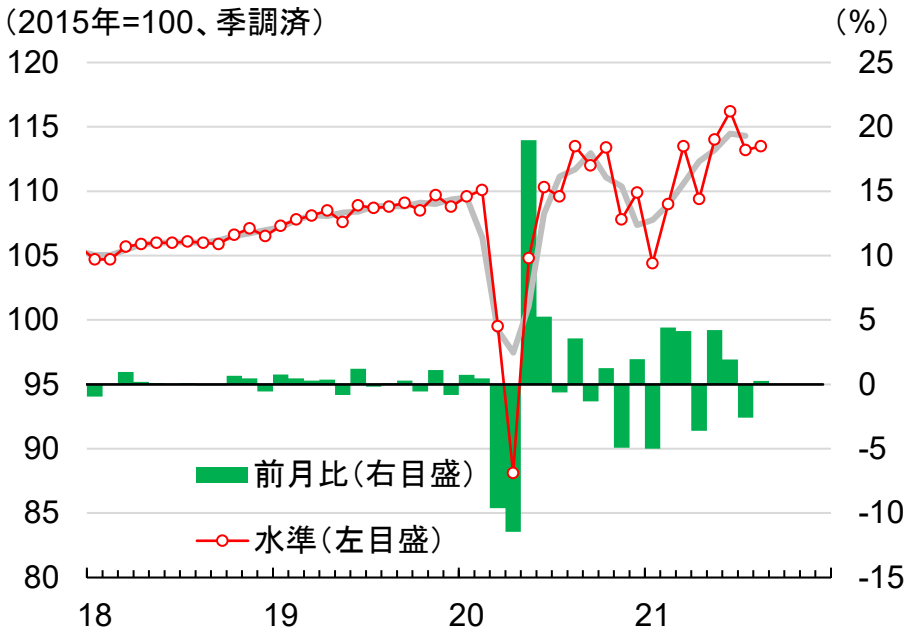


（注）3ヶ月後方移動平均
（出所）ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③　消費は頭打ち

ユーロ圏の8月の小売数量は前月比+0.3%と再び増加したが、均した動きは頭打ち。インフレの加速が消費の下押し圧力になっている可能性がある。一方で9月の新車販売台数は前月比+3.4%の年率793万台と4ヶ月ぶりに増加した。車種別にはEV（電気自動車）などの電動車が堅調である模様。

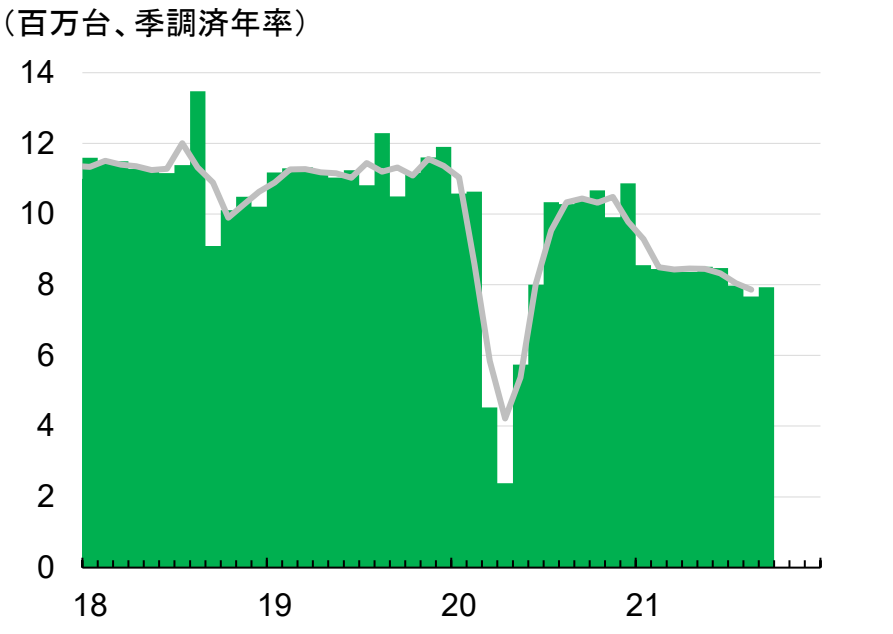
小売数量



（注）灰色線は3ヶ月移動平均　　（年、月）

（出所）ユーロスタット

新車販売台数



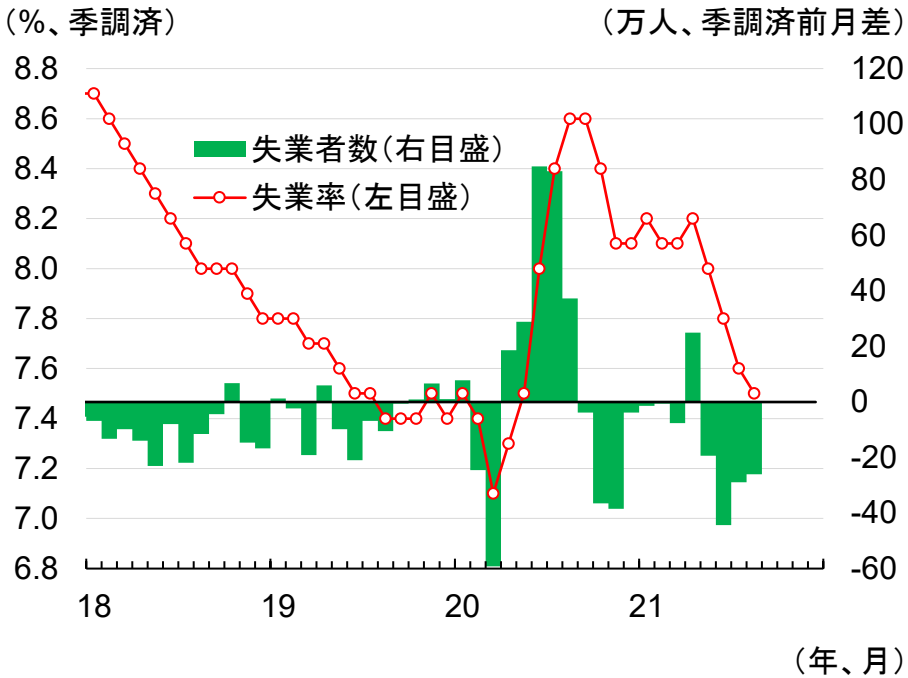
（注）灰色線は3ヶ月移動平均　　（年、月）

（出所）欧州中央銀行（ECB）

ユーロ圏景気概況④　雇用情勢は改善

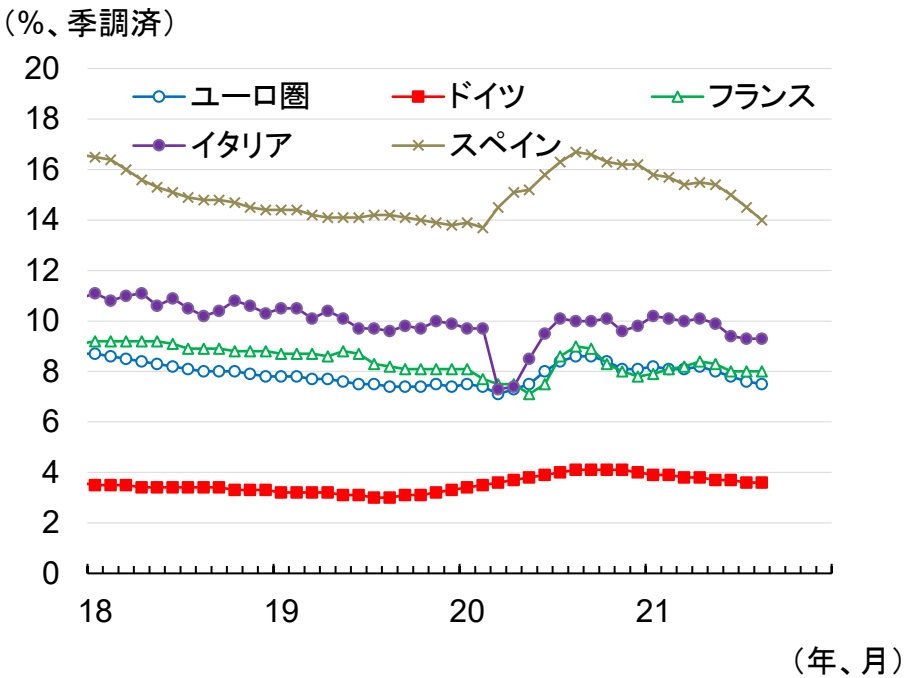
ユーロ圏の8月の雇用統計では、失業率が7.5%と4ヶ月連続で低下、失業者数は前月比26.1万人減と減少幅が2ヶ月連続で縮小したものの、雇用は改善している。主要国別に失業率を見ると、各国とも緩やかな低下基調を保っているが、ドイツでは下げ止まりの動きもみられる。

失業率と失業者数



（出所）ユーロスタット

主要国別失業率

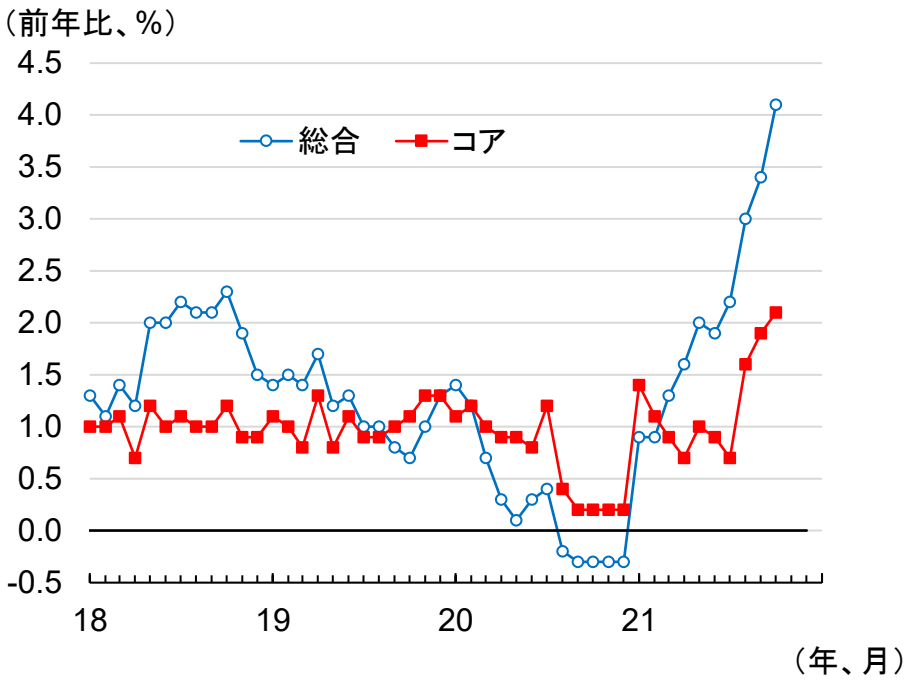


（出所）ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤　物価はインフレが加速

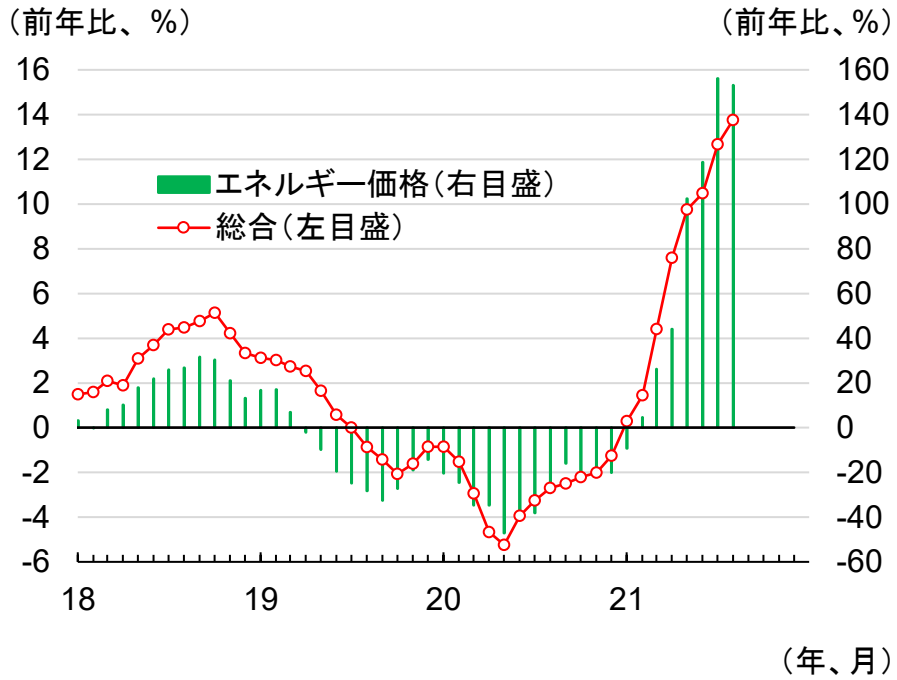
ユーロ圏の10月の消費者物価（速報値）は前年比+4.1%と上昇が一段と加速、13年ぶりの高水準となった。先行指標である生産者物価は8月時点で前年比+13.7%と、伸び幅の拡大が続いた。うちエネルギー価格は同+153.1%と前月（同+156.2%）から僅かに伸びを鈍化させたが、引き続き高い上昇率である。

消費者物価



（出所）ユーロスタット

生産者物価



（出所）ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥　ECB10月理事会は無風

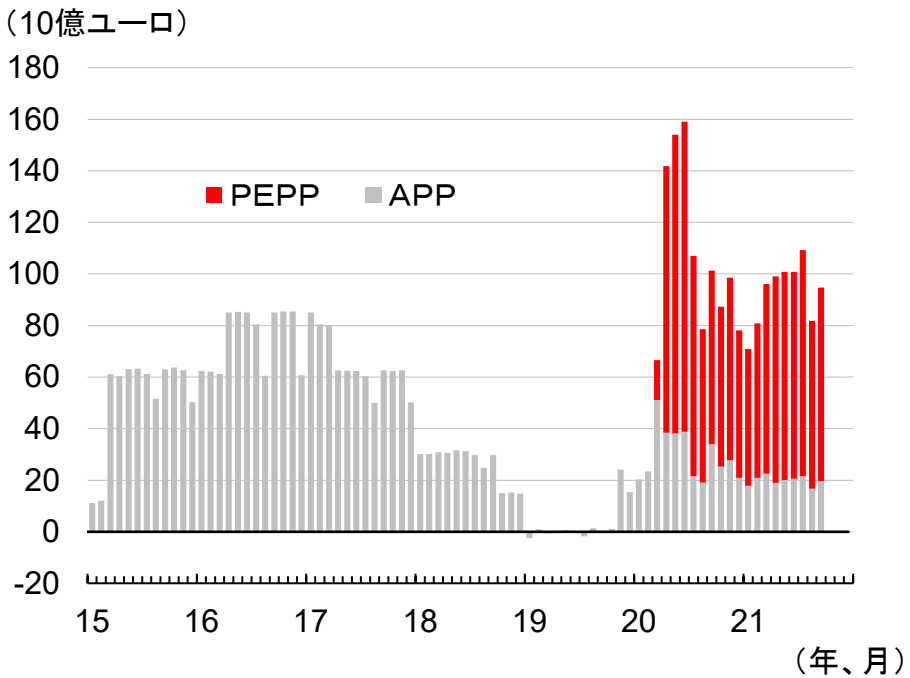
ECBは10月28日に理事会を開催、既往の金融政策パッケージを維持。年内最後となる12月16日の理事会で危機対応策であるパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の終了について議論すると発表。ラガルド総裁は足元のインフレ加速は一時的な現象という見解を堅持。

ECBの金融緩和パッケージ

ECBの2020年12月理事会での決定の概要	
政策金利の据え置き	主要政策金利を既往の年0.00%に、また貸出金利を年0.25%に、預金金利を年-0.50%にそれぞれ据え置き。
資産購入策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急対応プログラム（PEPP）での資産購入額を5,000億ユーロ増額して総額1兆8,500億ユーロに拡大。また期間を9ヶ月延ばして22年3月まで延長。再投資の期間も少なくとも23年末まで1年延長。 既往の資産購入プログラム（APP）は月額200億ユーロでの購入をオープンエンド型で継続。
資金供給策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急リファイナンスオペ（PETLRO）を21年に4回追加 預金金利（現在▲0.50%）をさらに0.50%ポイント割り引いた水準（現状▲1.00%）で行う期間3年の資金供給策（TLTRO3）は22年6月まで期間延長。

（出所）欧州中央銀行（ECB）

資産購入の推移

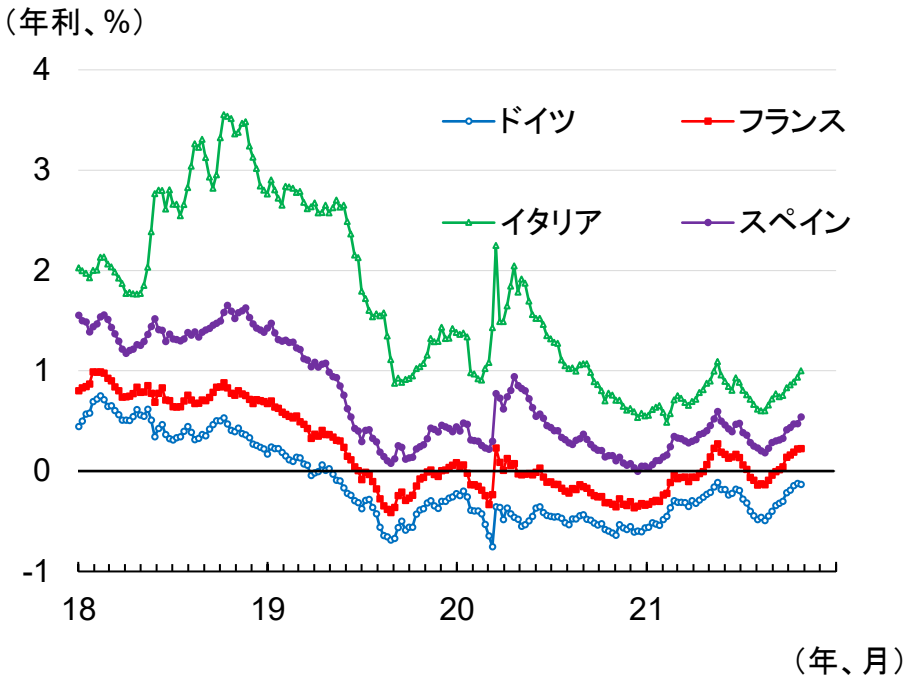


（出所）ECB

ユーロ圏景気概況⑦　金利と株価ともに上昇

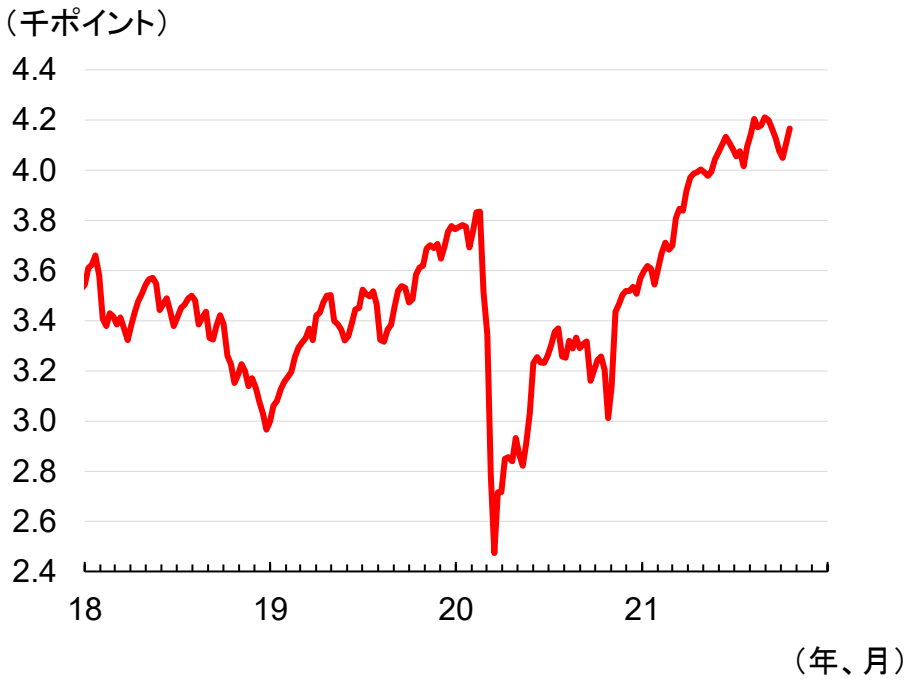
10月のユーロ圏の長期金利は上昇した。インフレが加速する中でECBがパンデミック対応の手仕舞いを速めるという観測などから金利に上昇圧力がかかった。一方で株価（Eurostoxx50）は上昇した。金利上昇を好感した銀行株や市況回復を受けた鉱山株が相場の上昇をけん引した。

長期金利



（出所）ECB

株価（Eurostoxx50）

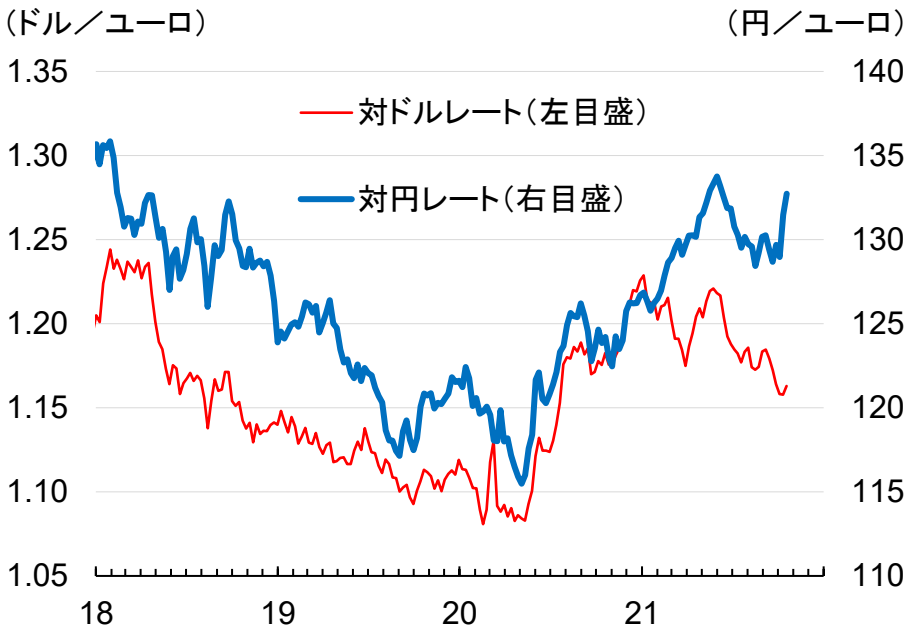


（出所）STOXX

ユーロ圏景気概況⑧　対ドルで横ばい、対円でユーロ高

10月のユーロ相場は対ドルで横ばい、対円でユーロ高。対ドルでは、欧米共に金融緩和からの出口戦略が意識される中で膠着が続いた。対円では、日本の景気回復の遅れなどが嫌気されてユーロ高が進んだ。国際収支は経常収支の黒字が拡大、実需面からのユーロ買い圧力はしっかりしている。

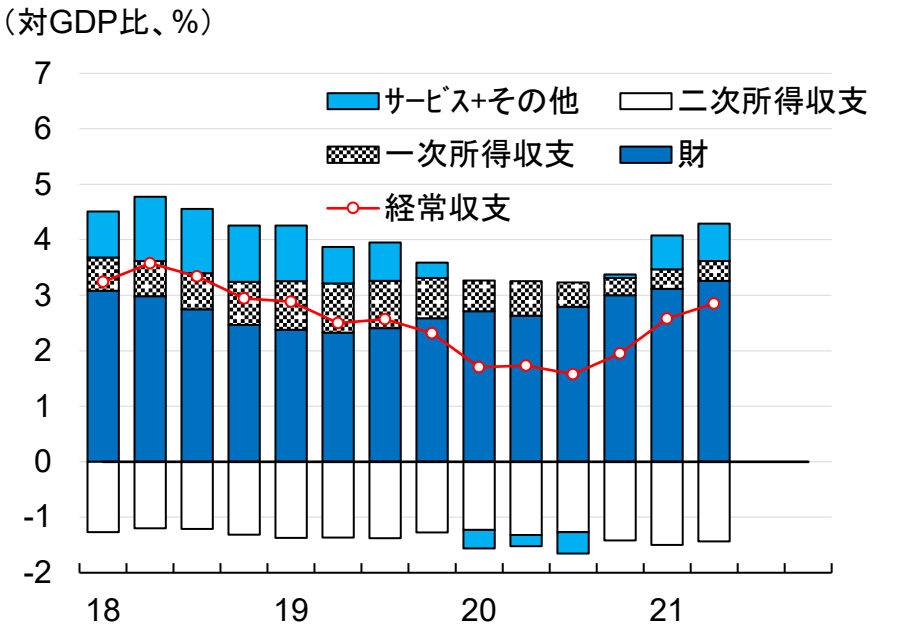
ユーロ相場



（注）週次レート　　（年、月）

（出所）ECB

国際収支



（年、四半期）

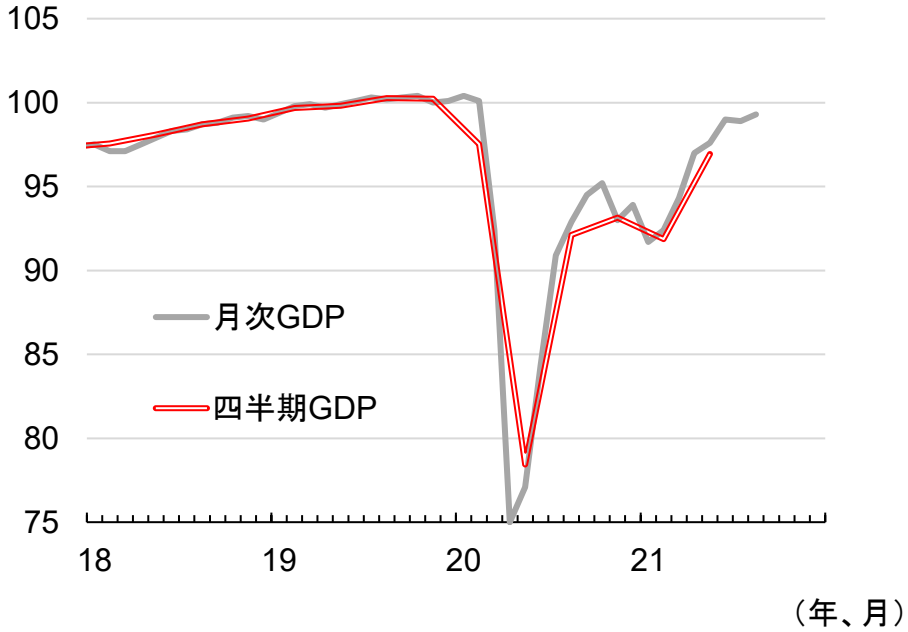
（出所）ECB

英国景気概況①　景気は回復している

英国の2021年4-6月期の実質GDP（確定値）は前期比+5.5%と再びプラス成長に服した。需要別には、個人消費や政府支出が景気の回復をけん引した。また最新8月の月次GDPは前月比+0.4%と再び増加に転じた。しかし6-7月期平均の成長率は四半期換算で+1.4%に留まっており、回復テンポは鈍化している。

実質GDP

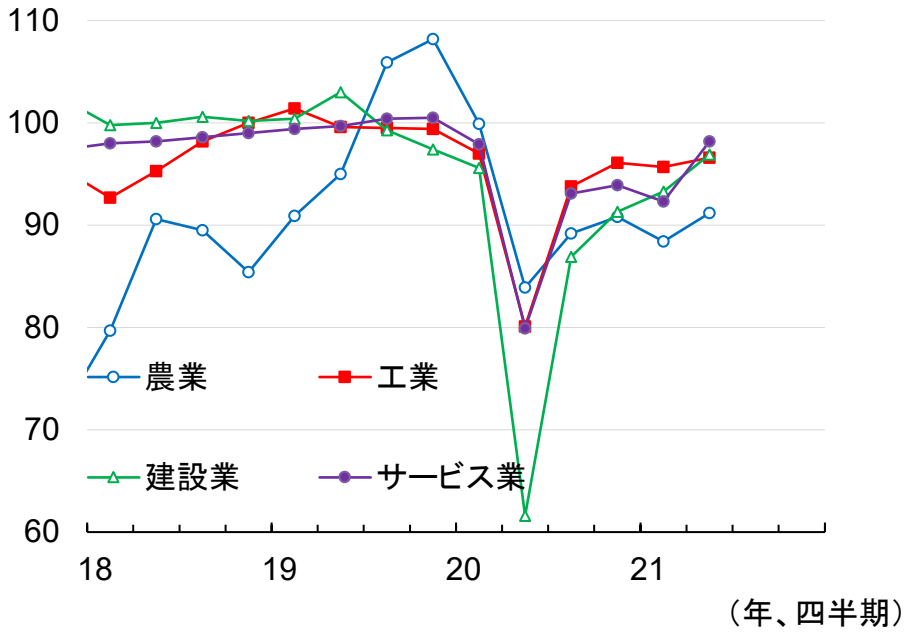
（2019年=100、季調済）



（出所）英国立統計局（ONS）

実質GVA（粗付加価値）

（2016年=100、季調済）

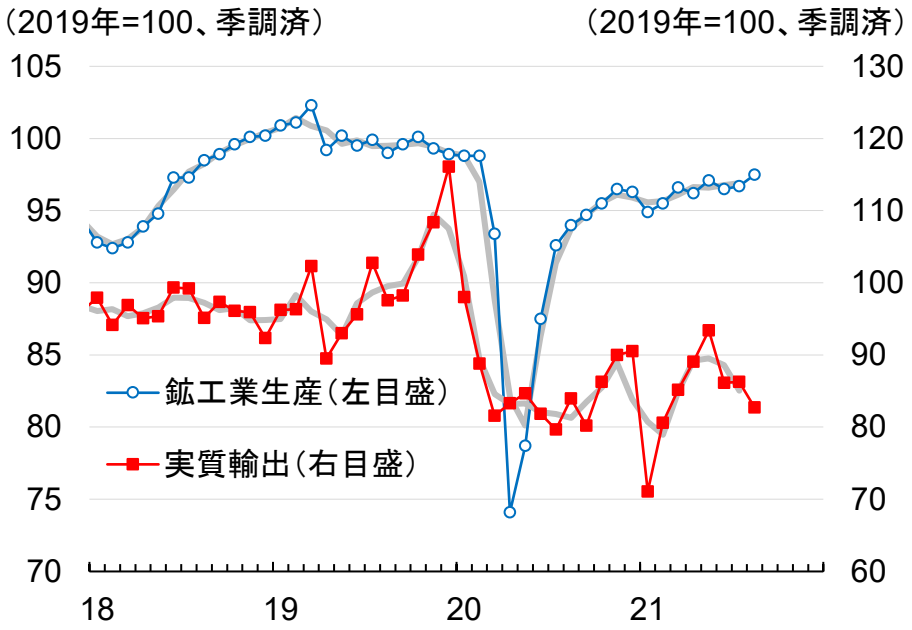


（出所）ONS

英国景気概況②　生産は回復

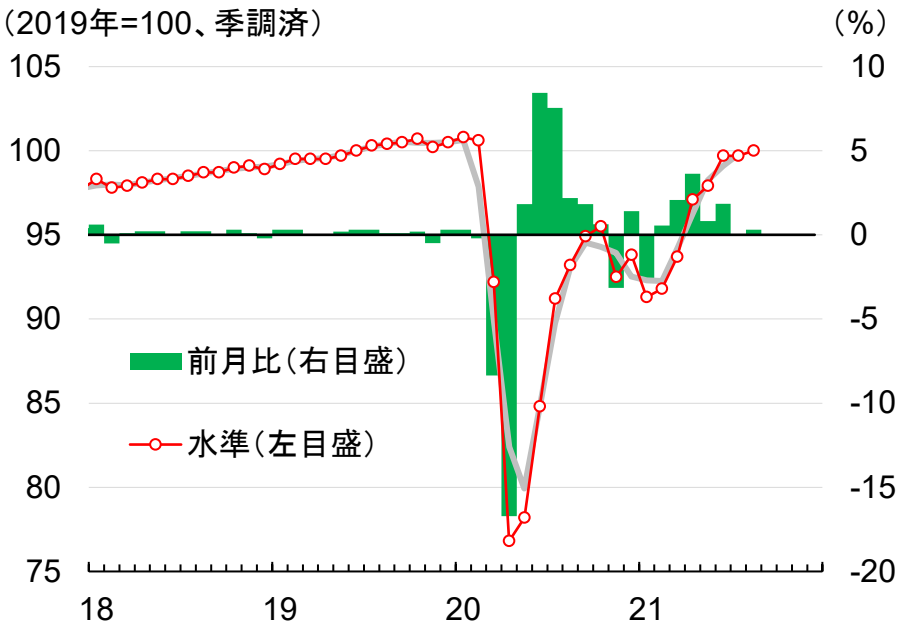
英国の8月の鉱工業生産は前月比+0.8%と7月（+0.2%）から増勢が加速、均した動きは回復基調を維持している。また同月の実質輸出も同-4.1%と再び減少、一進一退となっている。一方で、8月のサービス生産は前月比+0.3%と再び増加、均した動きは回復トレンドを維持している。

生産と輸出



（注）灰色線は3ヶ月移動平均　（年、月）
（出所）ONS

サービス業生産

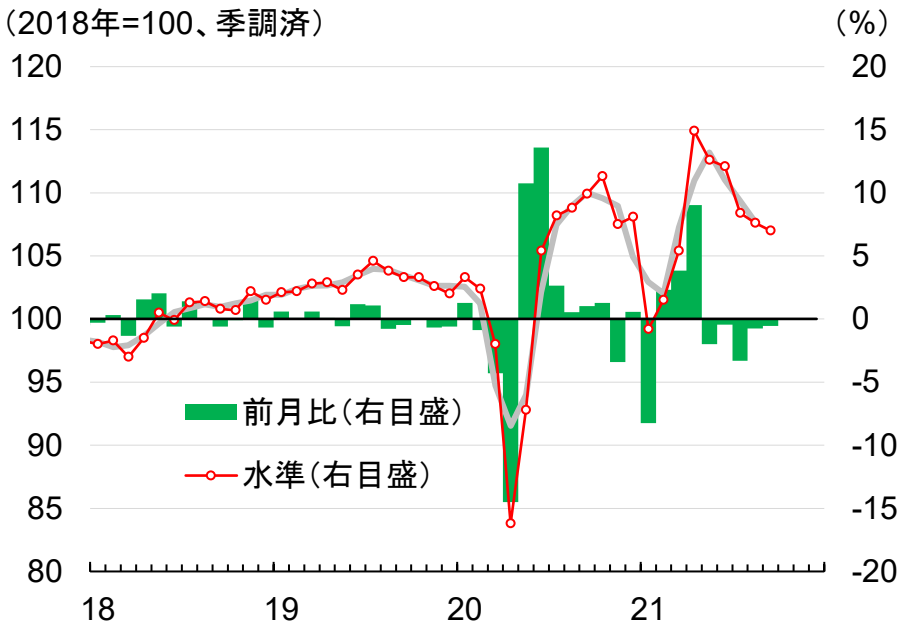


（注）灰色線は3ヶ月移動平均　（年、月）
（出所）ONS

英国景気概況③　消費は悪化

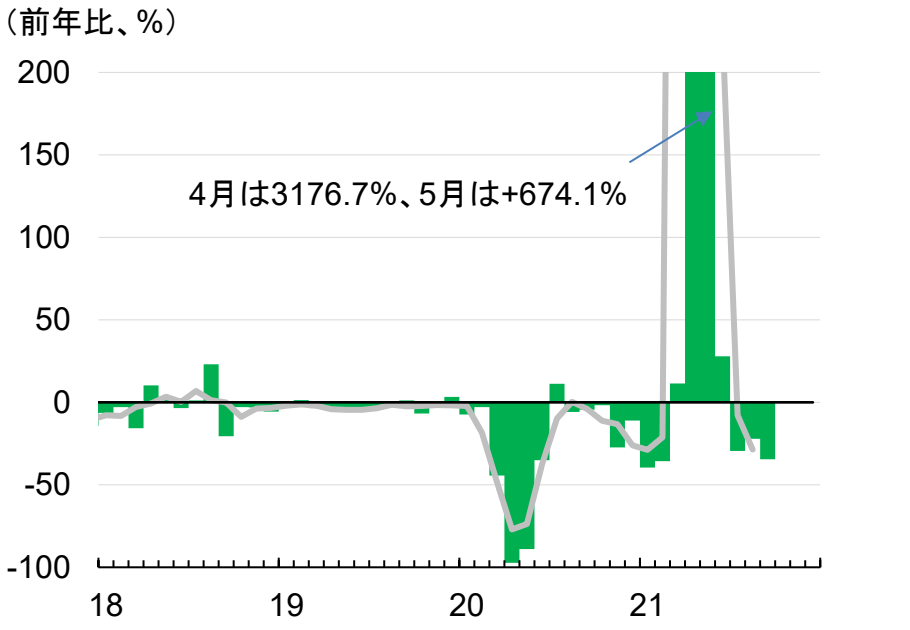
英国の9月の小売数量（除く石油）は前月比-0.6%と5ヶ月連続で減少した。物流の停滞に伴うモノ不足の影響が強いと考えられる。また同月の新車販売台数（乗用車）は前年比-34.4%の21.5万台と、マイナス幅が再び拡大した。世界的な半導体不足の影響で新車の供給が停滞している模様。

小売数量（除く石油）



（注）灰色線は3ヶ月移動平均　　（年、月）
（出所）ONS

新車販売台数（乗用車）

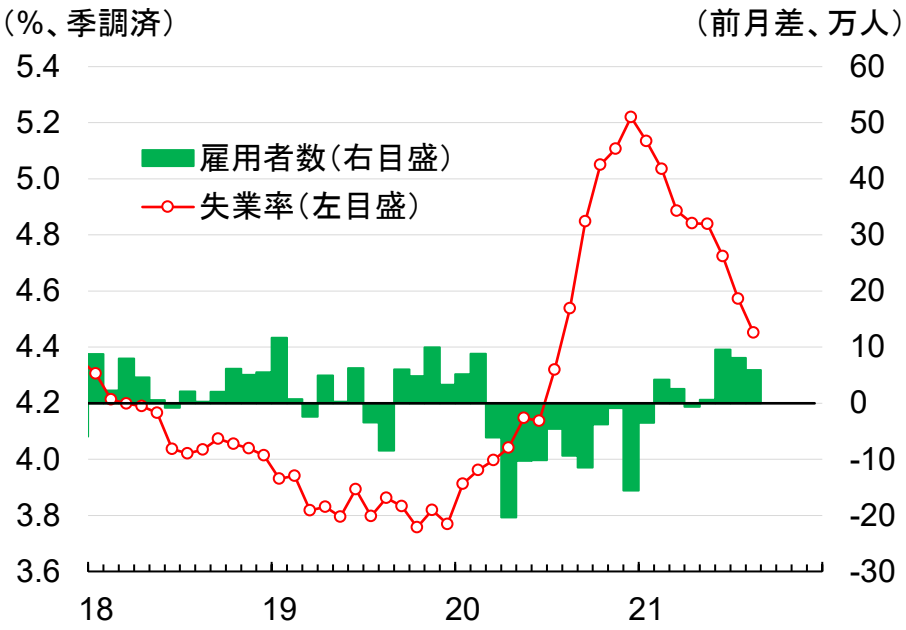


（注）灰色線は3ヶ月移動平均　　（年、月）
（出所）ONS

英国景気概況④　雇用は改善

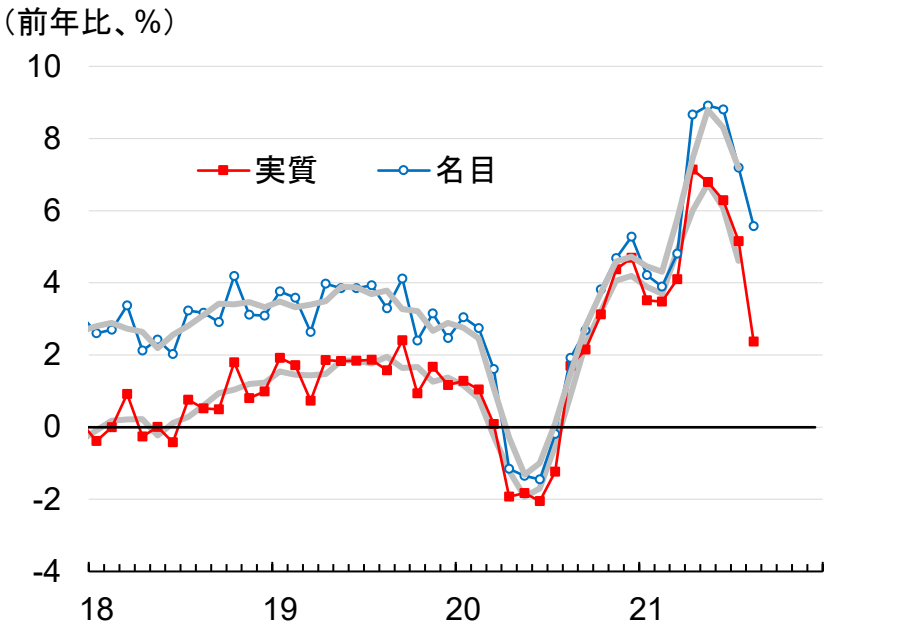
英国の8月の雇用統計（3ヶ月後方移動平均）は、失業率が4.5%に低下、雇用者数も前月比5.9万人増加するなど、雇用は改善している。賃金上昇のテンポは鈍化しているが、名目・実質ともに均した増勢はコロナ以前より強いままである。英国では物流を中心に労働者不足が深刻化、経済活動の制約となっている。

雇用統計



（注）3ヶ月間の平均値　（年、月）
（出所）ONS

平均賃金（週給）

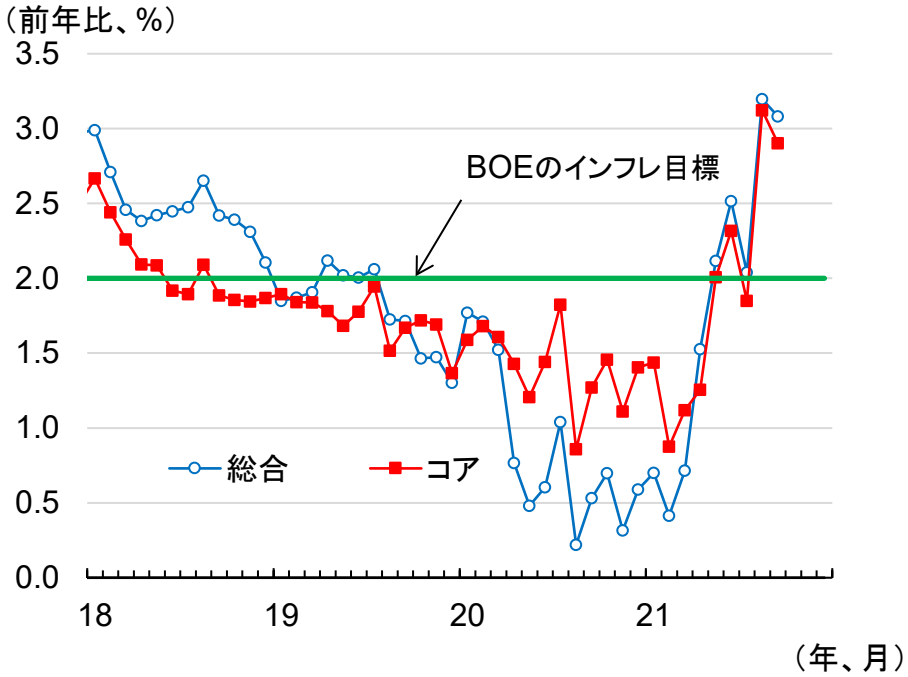


（注）灰色線は3ヶ月移動平均　（年、月）
（出所）ONS

英国景気概況⑤　物価はインフレが加速

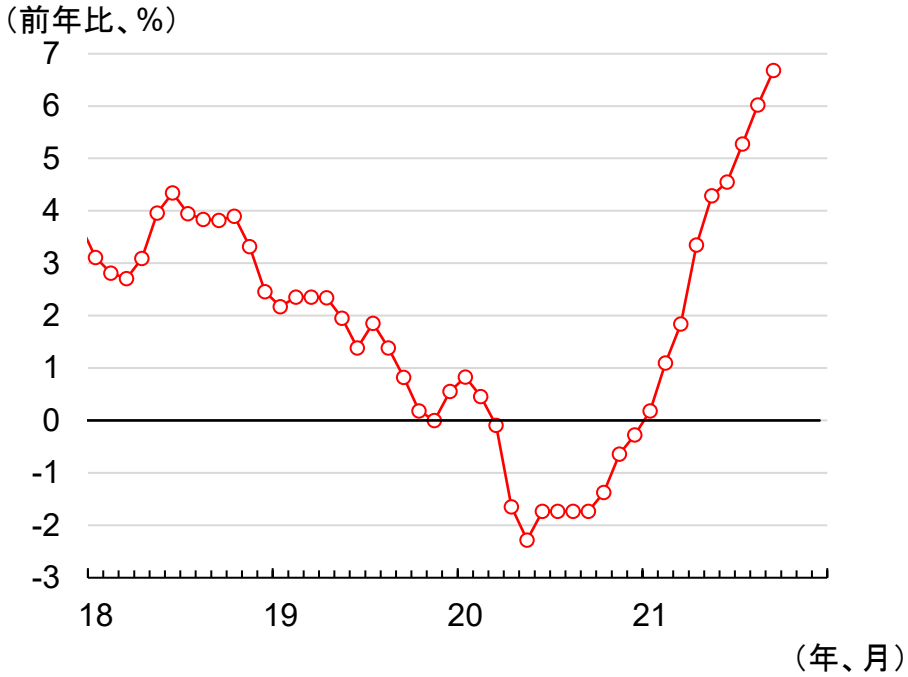
英国の9月の消費者物価は総合指数が前年比+3.1%と伸びがわずかに鈍化したものの、インフレは加速基調を維持している。また先行指標である生産者物価は同月が同+6.7%と、上昇の加速が続いている。インフレの加速に歯止めがかからないことから、イングランド銀行（中央銀行）のベイリー総裁は警戒感を露わにしている。

消費者物価



（出所）ONS

生産者物価（投入価格、除く関税）

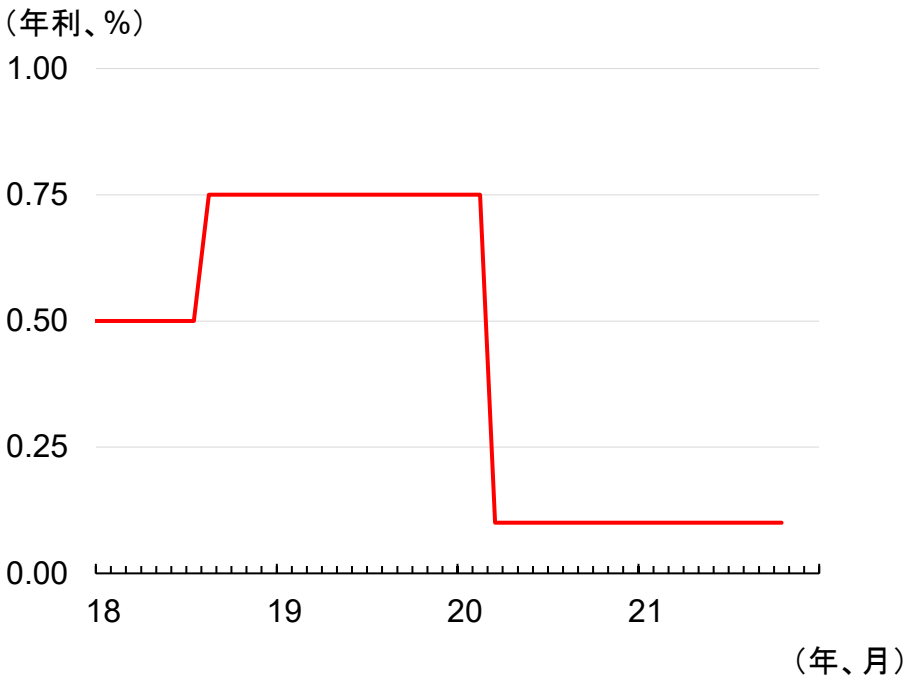


（出所）ONS

英国景気概況⑥　BOEに利上げ観測

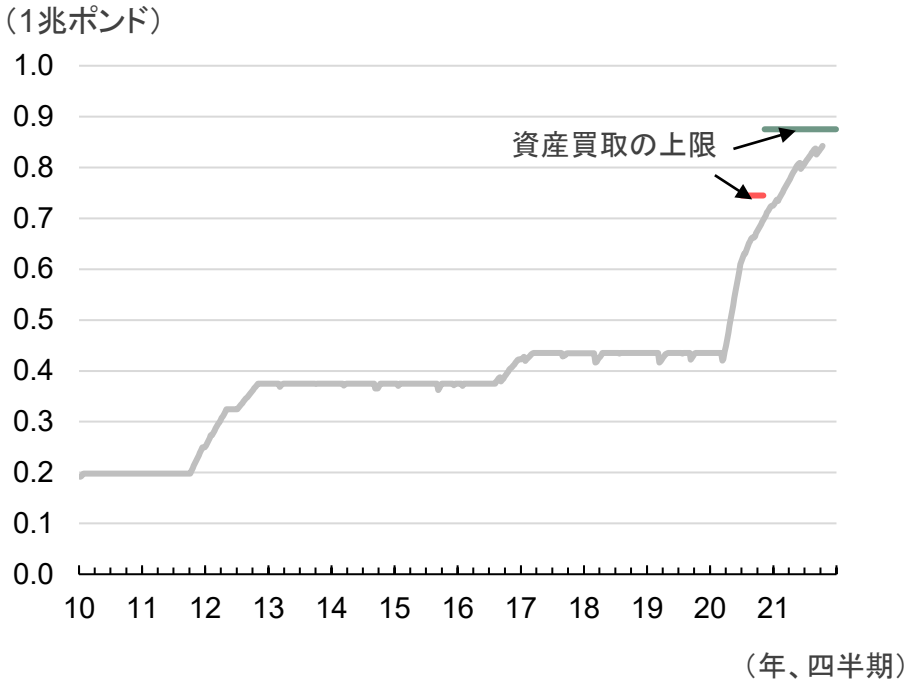
イングランド銀行（BOE）は11月4日に金融政策委員会（MPC）を開催。昨今のインフレ加速を考慮し、現在0.1%である政策金利を0.1-0.15%ポイント程度引き上げるという観測が高まっている。なお、BOEは政策金利が0.5%に達すると同時に国債の再投資を停止する方針を示している。

政策金利（バンクレート）



（出所）イングランド銀行（BOE）

英中銀の国債保有高

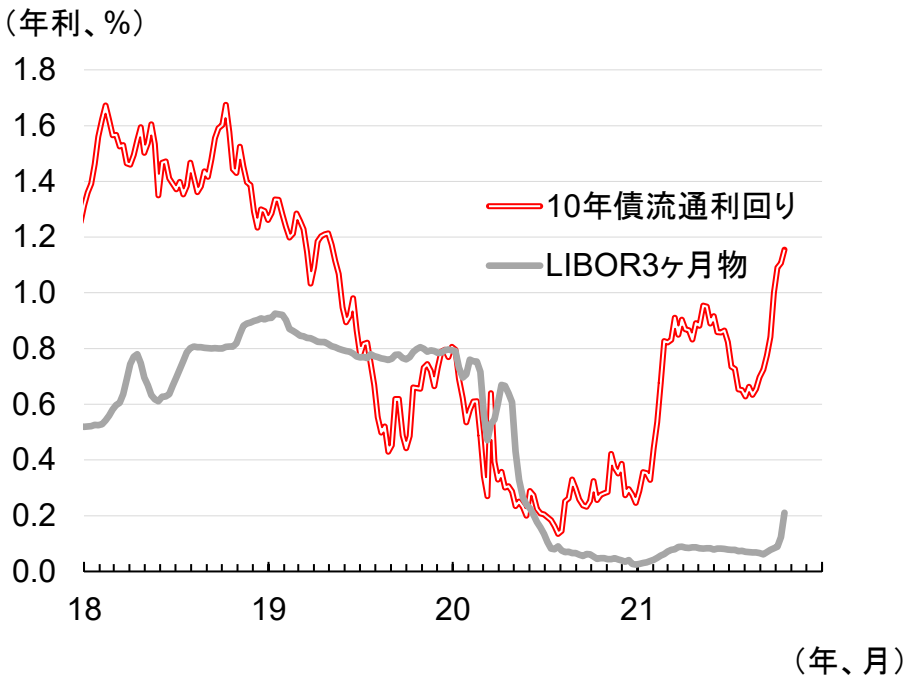


（出所）BOE

英国景気概況⑦　金利と株価ともに上昇

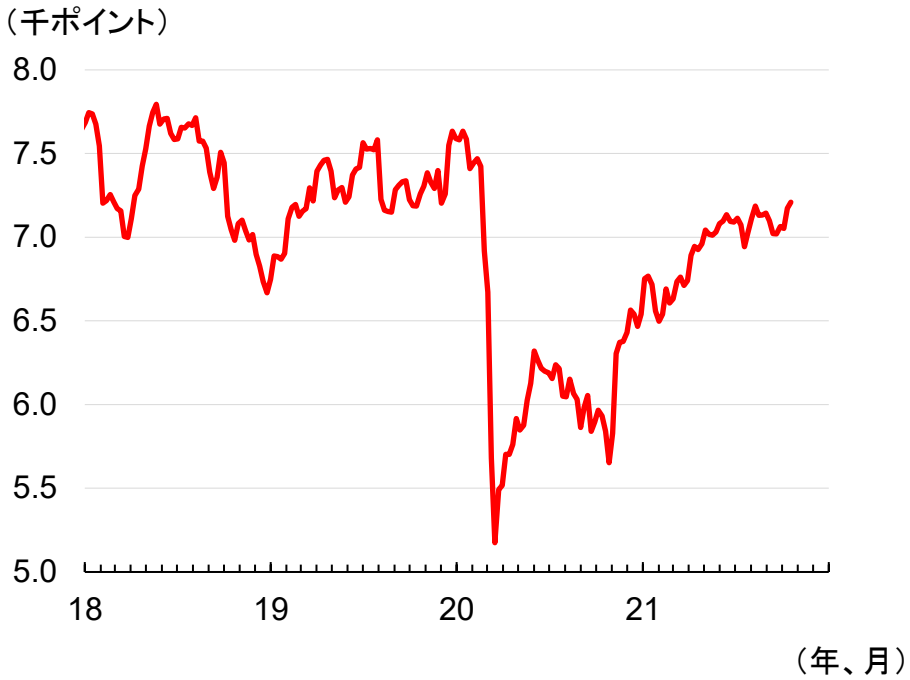
10月の英国の長期金利は上昇した。インフレの加速を受けたBOEの利上げ観測、また米連邦準備制度理事会（FRB）のテーパリング観測などが金利の上昇要因になった。一方で、株価（FT100指数）は上昇した。金利上昇を追い風とする銀行株や市況回復を受けた鉱山株が相場の上昇をけん引した。

金利



（出所）BOE

株価（FT100指数）

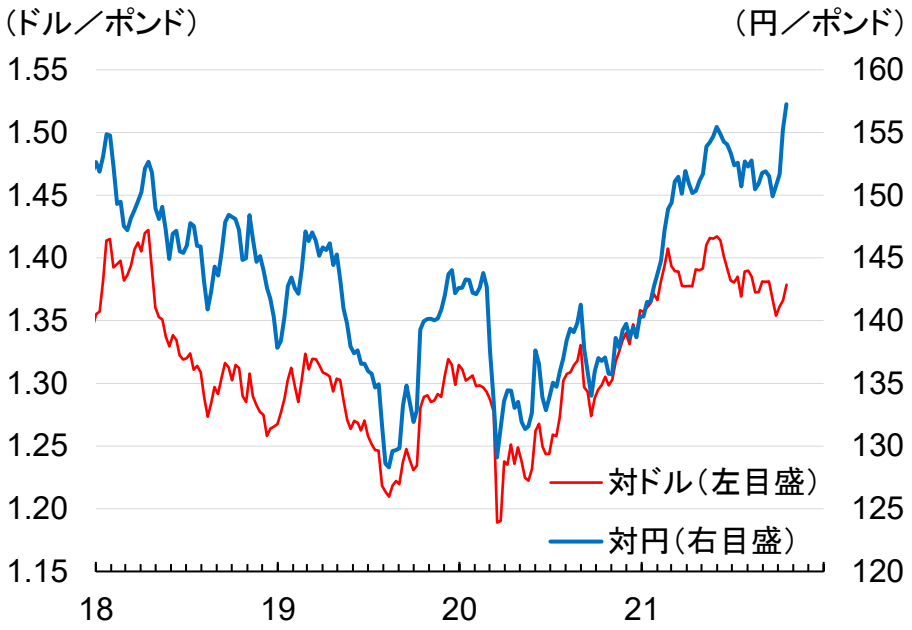


（出所）BOE

英国景気概況⑧　対ドル・対円で上昇

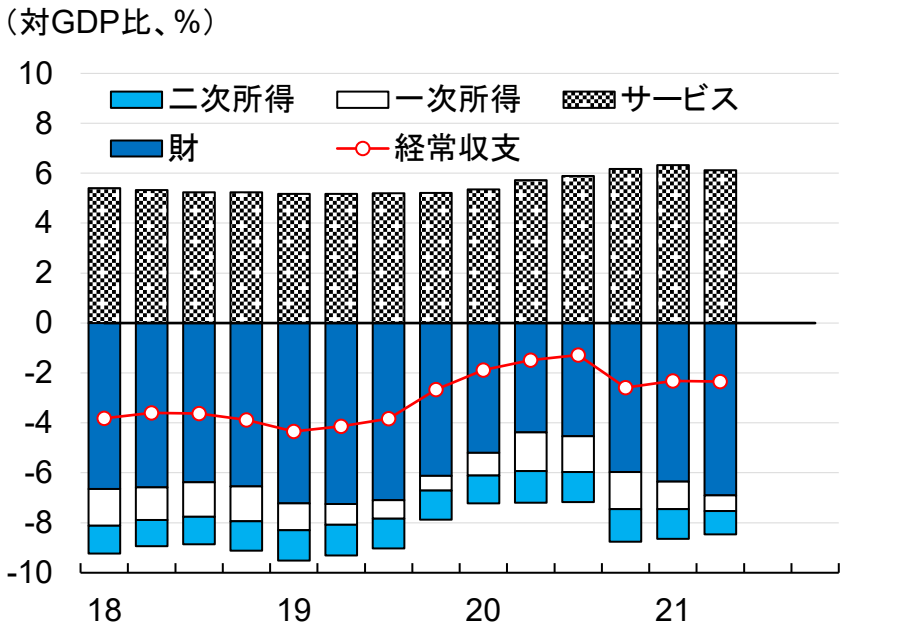
10月のポンド相場は対ドルで上昇した。世界的な米ドル中が続く中で、これまで買いが先行していたポンドに下落圧力がかかった模様。国際収支は経常収支の赤字幅がGDPの3-4%程度で推移しており、実需面からのポンド売りにつながっていると考えられる。

ポンド相場



（注）週次レート
（出所）BOE

国際収支



（出所）ONS

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

（お問い合わせ）調査部 土田陽介　TEL：03-6733-1628 E-mail：chosa-report@murc.jp
〒108-8501
東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

― ご利用に際して ―

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください